

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

コマなく さんぽ



杉並区

武蔵野の自然と文化の 香り漂う回遊式日本庭園 「大田黒公園」

1981年、音楽評論家・大田黒元雄の屋敷跡地に開園した「大田黒公園」は、回遊式の美しい庭を彩る紅葉の名所として知られる公園です。JR荻窪駅からほど近く、武蔵野の豊かな自然と気軽に触れ合える癒しスポットとなっています。

武蔵野の文化人が遺した遺産

「大田黒公園」は、大正から昭和期に音楽評論家として活躍した大田黒元雄の屋敷跡地を整備して作られました。大田黒氏は、86歳で逝去するまでの47年間にわたり、荻窪の地で音楽活動を行っていました。ドビュッシーやストラビンスキーを日本に初めて紹介した音楽評論家の草分け的存在として知られ、紫綬褒章や勲三等瑞宝章などを受賞しています。

公園にして欲しいという遺志のもとに寄贈された屋敷の面積は2679.63㎡にも及び、大田黒公園の敷地の30%にあたります。

茂る樹木草花と日本庭園が融合

ゆるく起伏する台地の地形を生かした大田黒公園は、杉並区の区立公園としては初めての池泉回遊式日本庭園です。檜でできた切妻造りの正門は、瓦葺屋根で左右に築地塀のあるどっしりした構えになっています。門から続く長さ70mの園路には白い御影石が敷かれ、園路の左右には、樹齢100年を超える大イチョウが立ち並びます。大イチョウのほかにも、ケヤキやアカマツ、シノキといった巨木を、園内の至るところで見ることができます。

園路を進むと数寄屋造りの茶室が現れます。秋田杉で造られた京間8畳の茶室の縁側からは、庭園が一望できます。木立の中を流れる川が注ぎ込む池は筑波石と植え込みで飾られ、ほとりに建つあずま屋とともに絵のような景色を生み出しています。

静寂の中、自然と文化に親しむ

大田黒氏の仕事場であったレンガ造りの洋館は、記念館として保存されています。1933年に建築されたこの建物は、当時としては珍しい西洋風の構造と意匠をもっています。館内は1階のみ公開されていて、大田黒氏が生前愛用したスタインウェイ社製のピアノや蓄音機などが展示されています。

春のサクラ、梅雨時のアジサイ、秋のキンモクセイ、冬のサザンカなど、季節ごとに違う顔を見せる大田黒公園ですが、特に人気が高いのは紅葉の季節です。JR荻窪駅からほど近い場所で、四季折々の武蔵野の風景を楽しむことができる大田黒公園は、区民の憩いの場として永く親しまれています。



ナグリ仕上げが施されたあずま屋と池



正門から続く27本の大イチョウ並木



登録有形文化財の記念館



高低差を利用した水の流れ



茶室から眺める日本庭園

大田黒公園

所在地 杉並区荻窪3-33-12
開館時間 9:00 ~ 17:00 (入園は16:30まで)
茶室・記念館は、9:00~16:00
休園日 12/29~1/1
入館料 無料 (イベントは有料の場合あり)
アクセス JR・東京メトロ丸の内線荻窪駅より徒歩10分
お問い合わせ 03-3398-5814

